

翔け！セラヴィ

3月1日、合志市女性連絡協議会まちねっと“セラヴィ”（以下、セラヴィ）、の主催により「翔け！セラヴィ」が開催されました。今回のテーマは、「環境について考える」で、『環境ネットワークくまもと』副代表の原育美さんが、自分たちにできる、地球や環境に優しい取り組みを分かりやすく話されました。「わたしたちが豊かな暮らしをすればするほどCO₂を排出し、南海の孤島が海に沈もうとしています。生ごみを堆肥にしたり、ペットボトルのお茶ではなく、自分で入れたりするなど、今すぐにできることを実践しましょう」と訴えました。

セラヴィの会員も、「マイ箸」の取り組みなどを実践していますが、今回の講演でより具体的な取り組みをしようとしていました。

講演会の後は、活動報告に移り、セラヴィに所属する「エコライフ21」「更生保護女性会」「男女共同参画推進懇話会」「J A 菊池合志中央支所女性部」などからそ

れぞれの活動が報告されました。

セラヴィは、男女共同参画はもちろん、環境、消費生活、生きがいなど、女性の視点から見たまちづくりに積極的に取り組んでいます。

セラヴィに参加してみたい人は、お問い合わせください。

●問い合わせ先

総務課 総務選挙班(合志庁舎)

☎248-1112



7年間、ありがとうございました。

Marc Waterfield (マーク・ウォーターフィールド)
出身地：カナダ ノバスコシア州 ハリファックス市

ちょっとCHAT time

To everyone in former Nishigoshi Town and Koshi City,

I hope this article finds you well and happy. It has been a cold couple of months in Koshi but, I am sure there are warmer days ahead.

This may be my last entry in the Koshi Koho. However, unlike other ALTs before me who have written their final entry before returning to their home country, I will not return to Canada to live. Unlike other ALTs who have listed all the things that they will miss about Japan, I will still be able to run into friends I have made and students I have taught.

I do not want this to be a sad good bye. Rather, a thank you and a promise. It is because of the great people that I have met over my 7 years living and working in former Nishigoshi Town / Koshi City and the advice that I have been fortunate enough to receive over those years that has helped me come this far. This year I will begin my studies at Kumamoto University. This will be one more step toward reaching my goals, goals that are within my reach thanks to each and every person who has helped me along the way. It is for this that I thank you. It is also for this that I promise to continue to strive and pursue new goals.

Yes, I will be moving away from Koshi but, not that far away. I am sure that our paths will cross again. I cannot list all of major events that have changed the course of my life since coming here 7 years ago (for these please feel free to look at past issues of the Nishigoshi Koho and the Koshi Koho). Let me just say that coming to Japan when I did change my life's course profoundly and I will always be grateful for the time that I had here. Now it is time for me to move on. Let's continue to work and make our dreams come true!

With Love and Respect,
Marc Waterfield
Former Nishigoshi / Koshi ALT
Current Kumamoto University Master's Student

旧西合志町と合志市のみなさまへ

みなさま、お元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。ここ2、3カ月は寒い日が続いていますが、暖かい春はもうすぐそこまで来ていると思います。

広報こうしにわたしの記事が載るのは今回が最終回となりました。でも、これまでのALTの先生方のように母国に帰るのではなく、わたしは日本に残るつもりです。帰国すれば日本のいろんなことが懐かしくなるのですが、わたしはこれからもみなさんとどこかでお会いする機会があるだろうと思っています。

ですから今回はさよならのメッセージにするのではなく、みなさんへの感謝と約束のメッセージにすることにします。なぜならこの7年間にわたり、旧西合志町と合志市で働かせていただき、多くの方々からアドバイスをいただきましたし、そのおかげで今のわたしがいるのだと思うのです。そのことをわたしは心から感謝しています。今年からわたしは熊本大学で研究を始めることにしました。これは、わたしの夢を実現するための新たな一歩であり、この一歩を踏み出すために助けていただいたみなさんに心から感謝いたします。せっかくこの一歩を踏み出すことになったのだから、この新しい夢を確実に実現し、達成することをみなさんにお約束したいと思います。

もうすぐ引越しをしますが、遠くに離れるわけではありませんので、みなさんとどこかで偶然すれ違うこともあると思います。日本に来てたくさんの刺激を受けてわたしの人生が変わったと思います。（それを1つ1つここに書き出すことはできませんが、これまでの広報をご覧くださいできれば幸いです。）わたしが今、確信を持って言えることは、日本に来たということがわたしの人生を大きく変えた出来事であったこと、そしてここで過ごさせていただいた時間はわたしにとってたいへん貴重なものであったということです。これからも夢を実現すべく前進していきましょう。

愛と尊敬の意を込めて
マーク・ウォーターフィールド
元西合志・合志ALT
現熊本大学院生



御手洗遺跡

御手洗遺跡は、幾久富字乙丸の東部に位置し、縄文時代後期の遺跡として広く知られています。発掘は昭和のはじめ、大塚了城氏（仏教寺第14代住職）、坂本経亮氏等によって行なわれました。この時の調査で、表土から26cmまでの深さに縄文および古墳時代の土器・石器が出土し、さらに66cmの深さで縄文時代の土器のみが出土したことから、かなり

御手洗遺跡(乙丸)
指定年月日 昭和53年3月31日

こうし歴史発見!

第13回

長期間にわたった遺跡であったことがうかがえます。

縄文時代は今から約1万2千年から2500年前頃までといわれ、この時代の土器は早期・前期・中期・後期・晩期の五期に分けられます。御手洗式土器はこの中の縄文後期の土器として非常に価値が高く、学名も御手洗式土器と命名され、広く学界の注目を受けることとなりました。なお、御手洗式土器は文様によってA式・B式・C式に分類されています。

※石斧：斧の刃に用いた石器
土師器：古墳時代から平安時代にかけて用いられた素焼きの土器
高坏：食物を盛る、足のついた皿や鉢

合志市郷土史愛好会 新規会員募集中!

平成20年度の新規会員を募集します。郷土史の研究、県内の史跡めぐりほか、今年度は正倉院展開催にあわせ、奈良県への県外研修を予定しています。

●申し込み・問い合わせ先
合志市郷土史愛好会
東海三 ☎(227) 7112

人権よもやま話

春号



人権擁護委員
丸山 義弘

人権とは

人間が人間らしく生きていく権利で、すべての人が生まれながらにして持っている権利です。人権は日本国憲法で、すべての国民に保障されています。互いに相手を思いやり、自分の人権も相手の人権も大切に守りながら、ともに幸せに暮らせる社会を築いていきたいものです。

人権は、形として目に見えるものではありません。同和問題やハンセン病問題などの人権侵害や不当な扱い、虐待など、実際に生じているにもかかわらず、表面化しないケースも多いと思います。そこで、地域住民の身近な相談相手として、人権擁護委員が活動しています。その一部を紹介します。

- ①6月1日「人権擁護委員の日」と定め、人権尊重の大切さを呼びかけています。
- ②人権週間
12月10日の世界人権デーの日を最終日とする一週間を人権週間と定め、人権尊重の大切さを呼びかけています。
- ③人権の花運動・人権教室
小学生・幼稚園児などを対象に人権の花運動での学校訪問や、啓発ビデオ、冊子「種をまこう」や紙芝居等を使用し、思いやりの大切さなどを伝えるため活動しています。

わたしたちは、この21世紀を人権と共生の世紀として確固たるものにするため、人権文化の創造を目指し、だれもが生き延びることの幸せを実感できる社会を実現していかなければなりません。そのためにも何をしなければならぬのか、どのような力をつけておかなければならないのか、各分野において人権をめぐる現状を明らかにし、人権教育啓発の最大限の取り組みを進めていく必要があると考えています。